

解 答

1 (B)	2 (B)	3 (A)	4 (D)	5 (C)	6 (A)
7 (C)	8 (A)	9 (C)	10 (B)	11 (C)	12 (A)
13 (D)	14 (A)	15 (C)	16 (A)	17 (D)	18 (B)
19 (C)	20 (C)				

1. 「ジョンはナイアガラの滝を見たことがない」

▶ 現在完了が用いられている点を手がかりに、空所に never を入れて経験用法の否定形にすると自然な文になる。(D)ever は現在完了形の疑問文で、「今までに」という意味を表す。

(A)always は完了形で用いると、「ずっと、前々から」の意味になる。

[例] She has always lived in Otaru.

(彼女はずっと小樽で暮らしている。)

2. 「私たちは来月、スミス教授が戻ってくるまで、氏の自宅を管理するよう依頼を受けた」

▶ until he returns next month「来月に彼が戻るまで」とあるから、家の持ち主が不在だとわかるので、(B)を選び look after ~「～を管理する」とすれば文意が成立する。(A)look for ~「～を探す」、(D)look to ~「～の方を見る/(人)に期待する」。

□ look after ~「～の世話をする」 (= take care of ~/care for ~)

The elder sister looked after the baby instead of the mother.

(姉は母の代わりに赤ん坊の世話をした。)

3. 「単に一生懸命努力するだけでは、この試験に受かるには十分ではない」

▶ 選択肢には try を用いた能動態・受動態の動名詞が並んでいる。tryingを入れれば, just trying hard が「単に一生懸命努力すること」と動名詞を用いた名詞句になって主語として機能し、英文として成立する。本問で try は「努力する」という自動詞なので、受動態である(B), (C)は不可。

□ ... enough to do 「とても…なので～する/～するほど…」

She is rich enough to buy everything.

(彼女はほとんど何でも買えるほどお金持ちである。)

▶ enough は修飾する形容詞・副詞の後に置くことに注意。

4. 「ソウルはこの 15 年で大きく変わった。町の至る所で高層ビルが建設された」

▶ 選択肢すべてが前置詞である。まずは空欄の前後にヒントとなる語を探し、なければ文脈上ふさわしいものを選ぶ方針で解く。(all) over ~で「一面に」の意なので、(D)を選べば、all over the city となり、「町中に」の意となる。

□ all over ~「～の至る所で」

□ all over the world 「世界中で」

□ from all over the world 「世界中から」

5. 「その映画がそんなに面白いと知っていたなら、昨晩みんなで観に行ったのに」

▶ 与えられた英文の前半の節は、動詞(would have gone)に注目すると、仮定法過去完了の帰結節であると考えることができる。したがって、空所に had known を入れれば、英文として完成する。

■ 仮定法過去完了

基本形 : If + S + had done ~, S' + 助動詞の過去形 + have done ...

「もし(あの時)～だったら、…だったろう(に)」と過去の事実に反することを仮定・想像する構文。

使われる助動詞は主に **would** である。ただし、「…かもしれない」という意味を含めたいときには **might** が用いられ、「…できる」という意味を含めたいときには **could** が用いられる。

If I had left ten minutes earlier, I would not have missed the train.

(もし 10 分早く出発していたら、列車に乗り遅れることはなかっただろうに。)

She would have died if the climber had not found her.

(もしその登山者が彼女を見つけていなかったら、彼女は死んでいただろう。)

6. 「贅沢な製品を作るメーカーは今、より良い時代を見始めている」

► **start** は動名詞と不定詞のどちらが目的語になってしまっても、ほとんど意味に違いがない。与えられた英文では動詞が進行形になっている(are now starting)が、**start** は進行形の場合は動名詞よりも不定詞を目的語としてとる傾向が強く、(A)to see がより適切といえる。

[例] *My baby is starting to walk.*

(うちの赤ん坊は歩けるようになりました。)

動名詞と不定詞のどちらが目的語でも、ほとんど意味に違いのない他動詞

<input type="checkbox"/> begin (始める)	<input type="checkbox"/> cease (やめる)	<input type="checkbox"/> continue (続ける)
<input type="checkbox"/> hate (嫌う)	<input type="checkbox"/> intend (するつもりである)	
<input type="checkbox"/> like (好む)	<input type="checkbox"/> love (大好きである)	<input type="checkbox"/> start (始める)
<input type="checkbox"/> neglect (しない/し忘れる)		

7. 「1年以上歯医者に行っていないから、そろそろ予約をしなくてはならない」

due for ~「～することになっている」《形容詞の叙述用法》

I am due for promotion this spring.

(私は今年の春、昇進の見込みだ。)

due to ~「～のために/～が原因で」《群前置詞》

be due to A 「A のため [せい] である/A による」

His big success was due to his patience and diligence.

(彼の大成功は忍耐と勤勉によるものである。)

be due to do 「～することになっている」《予定》

The bus is due to arrive at 6:00.

(バスは 6 時到着予定だ。)

8. 「もし出来るのならば、全ての人が他人を助ける責任がある」

► 選択肢を眺めると、時制と主述の一致を問われていると分かる。if 節が can を用いているため、過去形は不適。主語の everyone は单数扱いなので、has が文法的に正しい。よって、(A)has が正解。

[例] **Everyone likes** spending time with friends.

(誰でも友人と時間を過ごすのが好きである。)

9. 「ウィリアムが勉強により多くの時間を受けなければ、彼は今年確実にいくつかの授業に落第するだろう」

► コンマで区切られた 2 つの節があるので、空欄には接続詞の(B)か(C)が入る。後半の主節の内容は、ウィリアムが授業に落第するということである。それは、ウィリアムが勉強に今以上の時間をかけること(putting a lot more time into his studies)をしない場合であるから、空欄には「～でなければ」の意味の(C)Unless が適当である。その他の選択肢は、(A)without「～がなければ」、(B)except「～ということを除いて」、(D)besides「～の他に」という意味である。

unless ~「～でない限り (=except that ~)/もし～でなければ (=if ... not)」

He'll be here at six unless his flight is delayed.

(飛行機が遅れない限り、彼は 6 時にここに来るでしょう。)

► unless は「～でない限り」という否定の条件を表し、仮定法では用いない。

10. 「子供のような振る舞いはやめなさい。あなたはもう 20 歳なんだからね」

► 動詞 stop で始まる命令文である。他動詞 stop の目的語には動名詞を用いるので、(B)behaving が適切。

stop doing 「～するのをやめる」

► stop には stop to do「～するために立ち止まる」の形もあるが、この to do は stop の目的語ではなく、『目的』を表す副詞的用法の不定詞である。

He stopped **taking** pictures. 《他動詞の目的語》

(彼は写真を撮るのをやめた。)

He stopped **to take** pictures. 《不定詞の副詞的用法》

(彼は写真を撮るために立ち止まった。)

11. 「ブラッドは病気になったので、ロバートが彼に代わってその会議に出席した」

► 選択肢はすべて名詞であるので、文脈よりふさわしいものを選ぶ。(C)を選んで、*in one's place*「～の代わりに」が、病気のブラッドの代わりに会議に出るという内容となり適切である。その他の選択肢は、(A)*behalf*「味方、利益」、(B)*duty*「義務」、(D)*job*「仕事、職務」という意味である。

in one's place 「(人・物)の代わりに」 (= instead of A)

I will come to your home *in place of my mother*.

(私が母の代理でお宅へお伺いします。)

12. 「誰かジェイソンの事務所を探すのを手伝ってくれませんか？依然として地図上にそれを見つけられないのです」

► 与えられた英文の意味で判断すると、(A)*locate*「～の場所を見つける」を空所に入れれば自然な英文になる。

(A)*locate*「～を見つけ出す/～を突き止める」、(C)*focus*「(注意・精神など)を〔…に〕集中させる [on, upon]」。

help A (to) do 「A(人)が～するのを手伝う」

He *helped me climb* the stairs by propping me up with his shoulder.

(階段を上るとき彼はずっと肩で私を支えてくれた。)

► 時に **help A doing** も用いられる。

They *helped me carrying* the chairs out.

(彼らは椅子を運び出すのを手伝ってくれた。)

13. 「休暇から戻ってようやく、私は彼の事故について知った」

► 英文の内容と、空欄の直後の前置詞 *about* を用いる動詞という点から判断すると、(D)*learned*「耳にした、聞いた」が最適である。その他は、(A)*inform*「～に知らせる」、(B)*determine*「～を明らかにする」、(C)*accept*「～を受け取る」という意味。

learn about[of] ~ 「～について耳にする、知る」

How did you *learn about* us?

(どうして私たちのことを知ったのですか?)

14. 「キノシタ氏はどの位の頻度でジムでトレーニングするのですか？」

► at the gym「ジムで」と合うのは、(A)*work out*「トレーニングをする/汗を流す」である。(B)*figure out*～「～を理解する」、(C)*send out*～「～を派遣する/送る」。

How often ~ ? 「何回/どれほど頻繁に」〔頻度・回数〕

How often do you eat out?

(どれくらいの頻度で外食しますか?)

► 回数は **How many times ~ ?** でも表す。

How much ~ ? 型の疑問文

数量や程度を尋ねる「How + 形容詞[副詞]～？」には次のようなものがある。

How often ~ ? [頻度・回数] **How soon ~ ?** [時間の経過]

How much ~ ? [量・金額]

How long ~ ? [物の長さ・時間の長さ]

How long does it take to walk from here to the park?

(ここから公園まで歩いてどのくらいかかりますか。)

How far ~ ? [距離・程度] How far is it from Osaka to Kyoto?

(大阪から京都まではどれくらいの距離ですか。)

How many ~ ? [数]

How many math lessons do you have a week?

(数学の授業は、週何時間ありますか。)

15. 「私は新しい仕事を始めたいと思う。私はそれでとても興奮している」

- ▶ 空欄の前後にある **be** 動詞と **to** 不定詞を手がかりにすると、(C)eager を選び、**be eager to do**「～したいと思う」とするのが適切である。(A)は **look forward to A** で「A を楽しみに待つ」の意。この **to** は前置詞のためその後は名詞・動名詞がくる。

□ **be eager to do** 「(人が)～したいと思う」 (= **be anxious to do**)

We are all **eager to see the new movie.**

(私たちはみんなその新作映画をぜひ見たいと思っている。)

16. 「時間はかかったが、その父親と息子はついにお互いの意見の相違を解消することができた」

- ▶ 英文の意味を手がかりに考える。**difference** には「意見の相違、不和」という意味があり、(A)**resolve**「～を解消する」を入れれば、「不和を解消することができた」という英文が完成する。その他は、(C)**restore**「～を回復する」、(D)**figure**「～を計算する/～と考える」という意味である

17. 「サラはカナダ旅行の計画を来年の夏まで延期することに決めた」

- ▶ **until next summer**「次の夏まで」という表現を考慮に入れると、(D)**put off** ~「～を延期する」が最適である。(B)**follow up** ~「～の後について行く/～より詳しく調べる」、(C)**oppose**「～に反対する」は他動詞なので、**to** は不要である。

□ **put off** ~「～を延期する」 (= **postpone**)

You should not **put off** answering the letter.

(あなたはその手紙の返事を書くのを延ばすべきではない。)

▶ **put off doing**[^x**to do**] 「～するのを延期する」

18. 「グレッグは 4 番街でバスに乗り、図書館へ行った」

- ▶ 「バスに乗る」という場合は、**get on a bus** という表現を用いる。**board**「～に乗る」は他動詞であり、**on** が不要。

[例] Before **boarding** the plane, you must have your luggage searched.

(飛行機に搭乗する前に、荷物の中身を調べてもらわなければならない。)

on と off / put on ~ の反意表現

on と **off** はいろいろなイディオムで反意表現として用いられる。

□ **get on** a bus 「バスに乗る」 ⇔ □ **get off** a bus 「バスから降りる」

□ **turn on** the TV 「テレビをつける」 ⇔ □ **turn off** the TV 「テレビを消す」

⇨

* **put on** ~「～を着る」の反意表現は **put off** ~ではなく **take off** ~「～を脱ぐ」になる。**put off** ~は「～を延期する」の意味で使うのがふつう。

19. 「兵士たちは森に隠れた敵兵を捜すという危険な任務を帯びて派遣された」

- ▶ 空欄に入る名詞を、直後の **to** 不定詞が修飾している。「森に隠れた敵兵を探す」という」がその内容なので、(C)**mission**「任務」が適切。**be sent on a mission** で「任務を帯びて派遣される」となる。

(A)**battle**「戦闘」、(B)**discovery**「発見」、(C)**mission**「使命、任務」、(D)**position**「位置、場所」。

20. 「ジェニーは特別な食事制限をしているので、避けなければならない食品がいくつかある」

- ▶ 関係代名詞節なので、空欄に入る動詞が先行詞 **some foods** を目的語とする関係である。ダイエットの話題の英文だから、「～を避ける」の意味の(C)**avoid** が最適である。

選択肢はそれぞれ、(A)**deny**「～を否定する」、(B)**lack**「～を欠いている」、(C)**avoid**「～を避ける」、(D)**cancel**「～を取り消す」という意味である。

□ **be[go] on a diet** 「ダイエットをしている[する]」

The doctor told me to **go on a diet** to lose weight.

(医者は私に体重を減らすためにダイエットをするように言った。)

▶ この **on** は「～して/～中で」の意味で『状態・従事』を表す。